

# 飯伊地区 産業経済動向

No.550 2025/1  
(7.2.25 発行)

 飯田信用金庫  
IIDA SHINKIN BANK  
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>  
〒395-0044 飯田市本町1-2  
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



## Contents

表紙 写真：本線工事が進む三遠南信自動車道（喬木村富田・令和6年12月撮影）写真提供：喬木村役場	P 1
製造業 景況DIは前月から悪化。電気・精密・光学分野では景況感好転の声が多い	P 2
建設業 1月の公共工事は前年比横ばい。12月の住宅着工は前年比37%増加	P 4
商業・サービス業 景況DIは前月から大幅に悪化。飲食業、宿泊業で悪化の声が多い	P 5
特集 地域企業の挑戦 旭松食品株式会社「原料も、製品も、人材も『無駄にしない!』」	P 6
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標	P 9
新入社員研修会（令和7年4月23日（水））のお知らせ	P 10

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



再生紙を  
使用しています

## 地区内製造業の景況判断指数

### 概況 景況DIは前月から悪化。電気・精密・光学分野では景況感好転の声が多い

当月の製造業の業況判断指数（DI）は0.0で、前月から20.5ポイント低下。翌月予測はマイナス5.1で、前月から7.4ポイント上昇。全体では景況感横ばいとの声が6割程度だったが、機械製造の電気・精密・光学分野では売上増加、景況感好転の声が多く聞かれた。一方、食品製造では年末シーズンを終え、一部に景況感悪化の声が聞かれ、数値を押し下げた。先行きについては、機械製造の産業機器分野と、食品製造で悪化を見込む声はやや多かったが、全体では好転見込みと悪化見込みの声が拮抗している。

#### 主な業種の動き

##### ●電気・精密・光学

- 受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、増加の声が多い。先行きについては、販売、受注ともに増加見込みとの声やや多い。
- 景況感…… 当月の景況感は好転との声が多い。先行きは好転見込みと悪化見込みの声が拮抗。

#### [企業からのコメント]

・弱いながらも上昇基調に入ってきている感じがある。

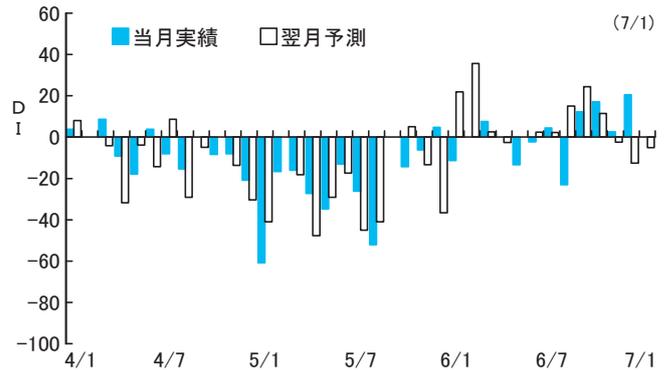
##### ●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- 受注、販売… 受注は前月比で減少～横ばい、販売は前月比横ばい～やや増加。先行きは、受注、販売ともに減少を見込む声が多い。
- 景況感…… 当月の景況感は横ばい～やや好転。先行きについてはやや悪化～横ばい。

#### [企業からのコメント]

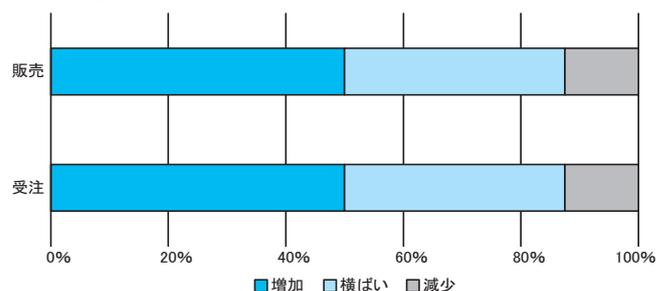
- ・「12～1月は比較的良かった。ただ、2月は落ち込む予想。さらに取引先の決算が集中する3月はさらに落ち込む予想。4月はその反動で良くなることを期待するが、受注残はまだ弱い。4月を挽回の月にするため、新規案件に注力する」「小幅な上下はあるものの、今年3月までは同水準の販売高で推移する見込み。ただ来春以降は不安定となっており、一旦踊り場を迎えるとの情報が出てきている」
- ・「地元業界や同業他社、仕入れをしている業者からも良い話は聞かない。我慢の時間が続く」「経営判断がとても難しい。金利も上昇し、人材も不足。半年先も読みにくい」「2025年前半は踊り場予想の観測から、新規品を旺盛に獲得する、自動化を進める、現状維持で様子見する等、サプライヤによって様々な活動となっている」
- ・「世界半導体市場統計では、日本の半導体市場の動向について2024年は前年比4.6%プラス、2025年は9.3%プラスと成長が加速すると予想している。ただし、米国の政権交代による関税引上げや輸出規制強化リスク、中国経済の低迷、台湾有事懸念、ロシアや中東の紛争継続等の地政学的リスクがあり、はっきりと見通しが明るいとは言えない状況」「アメリカ政権交代により日本企業のみならず、世界各国様子見状態と思われる。5月あたりまで低迷の様相。日産、ホンダの破談問題も、今後慎重に観察する必要があると思う。また、中国の動きが読み取れず、不安要素が大きい」

飯伊地区景況DI（製造業）

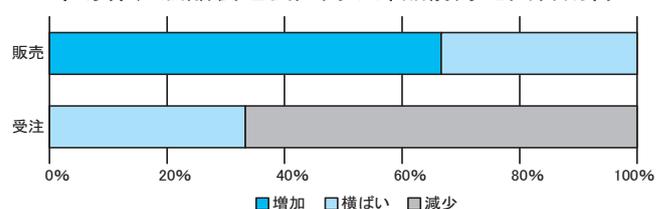


【DI（ディフュージョン・インデックス）とは…  
景況に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。  
「先月と比べて景況が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景況が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



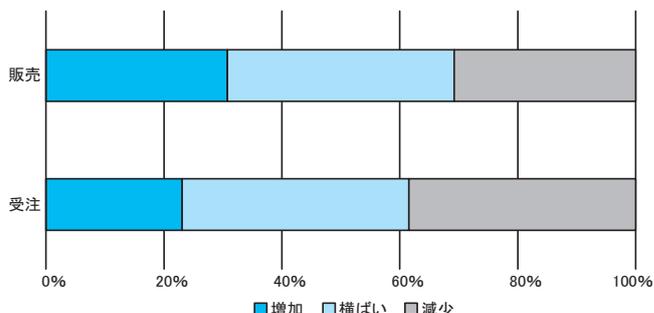
半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ☑受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれ、受注は減少の声がやや多い。先行きについても業者により増減分かれるが、減少見込みの声が多い。
- ☑景況感…… 当月は業者により見方が分かれるが、横ばいの声が多い。先行きは横ばい見込みの声が多いが、次いで悪化見込みの声が多い。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



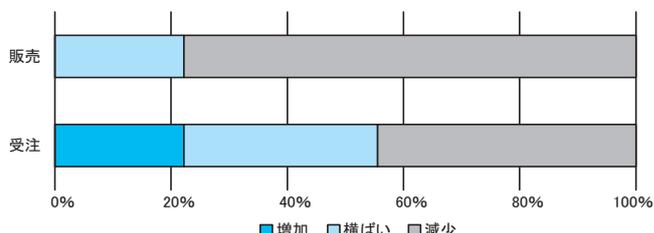
[企業からのコメント]

- ・「大手を含む取引のない企業から、問い合わせや引き合いが増加した」「月ごとの変動が大きいが、全般として良い動向ではない。自動車業界の方向性がトランプ大統領の発言に左右されるので注目している」「客先でも明るい話がなかなか出てこない。また、納期の先送りの話も出てきている」
- ・製造業（主に金属加工）全体では良い話がほとんどない。県外では8～9割の企業が厳しい状況で、80人規模くらいの会社でも我慢できずに倒産が始まっていると聞いた」「なかなか動き出さない。動き出すのは夏くらいかとの声もある」

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

- ☑売上…… 漬物の前月比は減少～横ばい。菓子の前月比は減少～横ばい。先行きは業者により増減分かれる。
- ☑景況感… 当月は横ばいとの声が多いが、一部にやや悪化との声。先行きも同様で、好転を見込む声はなかった。

食品製造 前月比回答割合



[企業からのコメント]

- ・「年末年始休みの長期化もあって、菓子は動いているとの話が多かった」「肉業界は1月は全体的にあまり良くない」「高価格帯の販売が鈍い。低価格帯の商品開発の依頼が増加している」「消費は減少している感じがある」「1月は受注減、消費動向の大幅な減衰を感じる、原料も高騰し厳しい状況はしばらく継続すると思われる」「野菜の高値が続き、価格が一定の野菜加工品へのシフトが見られた。ただ、加工業者の苦労は計り知れない」
- ・「仕入れ値が上がりつつある中、その分の価格をダイレクトに転嫁するのが難しい状況で、利幅が少なくなる予想をしている」「卵が高騰している。原材料、資材の値上げの話が尽きない」「原料野菜の高騰が長期化しているが、欠品出来ないため採算割れが課題である」「全体的に国内農産物原料不足」「葉物野菜を中心に高値が続いている。加工品は『価格が一定』と言われるが、野菜加工品にも時価という概念を取り入れなければ、今後供給が難しくなると感じる」

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ☑売上… 前月比は減少。先行きはやや増加を見込むという。景況感はやや悪化～横ばい。

[企業からのコメント]

- ・新年の幕開けの天候は日本全国好天に恵まれたが、2月初めの大寒波により各地を襲った大雪の影響で、初午際・四国椿祭り等、毎年大賑わいの催事・祭事への人出は予想を下回り、少なからず縁起物販売へマイナスの影響が出た。
- ・昨年よりも年始の休みが多く、人の動きも少なく、また材料の高騰、出荷価格の上昇で販売が少なくなった。また、全国的に積雪も多く、販売に悪影響を及ぼした。

●上記以外の製造業

- ☑建築用金属製品… 販売は前月比横ばい、前年比では増加、先行きは横ばいを見込む。景況感は当月、先行きとも横ばい。
- ☑自動車向け部品… 販売は前月比、先行きともに横ばい。景況感については当月、先行きとも横ばいという。
- ☑印刷…… 販売は前月比でやや減少、前年比は業者により増減分かれる。景況感は当月は横ばい、先行きはやや好転を見込むという。

[企業からのコメント]

- ・ゼネコンの職員不足、現場の完全週休二日制等により、建築現場はどれも工事が遅れている。
- ・前年に比べて受注件数はアップ。前年になかった仕事やスポットの仕事が少しずつ増えている感じがあるが、逆にリピート品の減少もある。
- ・デジタル化の波が印刷業界を締め付けてくる。そんな中でも病院関係等、災害やサーバー攻撃に対するアナログの必要性を感じた発注の傾向が多少出てきている。
- ・「営業員の不足感は相変わらず。顔を見る営業スタイルも大事だが、それと別の方法も要検討」「技能実習生の増員を検討」

# 建設業

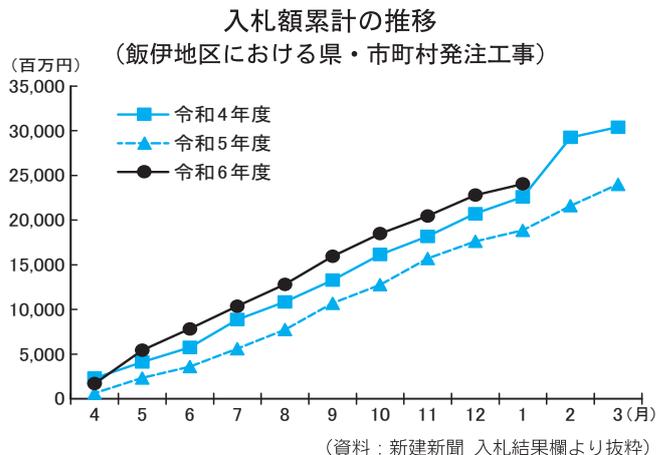
## 官公需

概況 1月の公共工事入札金額は前年比で0.7%増加、一昨年比では33.5%減少

☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約12.5億円（2月15日調査時点）。前年に比べ0.7%増加、2年前との比較では33.5%の減少。

☑景況感…………… 当月は業者により見方が分かれるが、横ばいとの声が多い。先行きについても横ばいを見込む声が多いが、好転を見込む声も複数聞かれた。

☑原材料価格…………… 当月は一部に下降との声があるが、やや上昇～上昇との声が多い。先行きについても上昇を見込むという声が多い。



### [企業からのコメント]

- ・「前年同月よりも受注金額は伸びている。6月以降の新規受注も進んでいるが、今期ほどではない」「災害関連工事や大型工事が減少」
- ・地元の目先はインフラ整備関連、153号線拡幅に伴う移転等の工事などが中心といった印象。長野県全体の同業者は、松本競技場、須坂イオン、軽井沢ホテルといった大規模工事に人員が割かれているが、3～5月は一旦稼働率が下がるような話が多い。夏以降、リニアの各駅、大企業の工場建築が始まると、人手不足が始まりそう。
- ・「生コンは4月より値上がり。またアスファルト合材も値上がりの予定」「材料の値段は、横ばいといった様子」「公共労務単価が3月に変更になるので、アップを期待している」
- ・人員確保のため、HPリニューアルをしていながら、全国から手空きの職人を集めてこられるように声を掛けている。

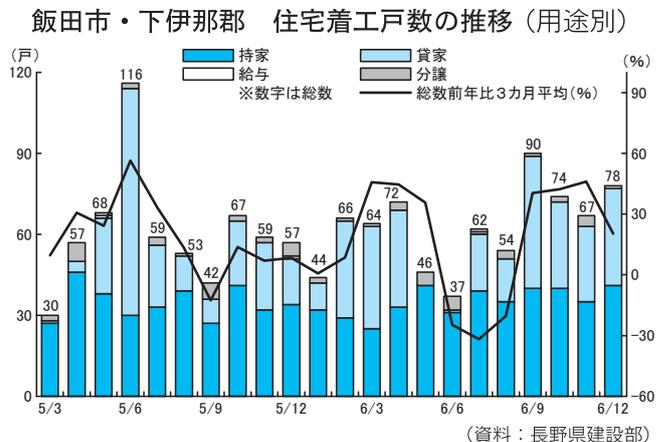
## 民需

概況 令和6年12月の住宅着工戸数は78戸で前年比37%増加。分譲は減少も、持家、貸家が増加し、6か月続けて前年比プラス

☑住宅着工戸数… 当地区の12月の住宅着工戸数は78戸。前月比16%増、前年比では37%増。持家の戸数は41件で前年（34件）から増加。貸家は36件で前年（17件）から2倍超の増加。分譲は1件で、前年（5件）から減少。

☑景況感…………… 当月は悪化～横ばいで、好転との声はなかった。先行きは業者により見方が分かれるが、横ばいを見込む声が多い。

☑原材料価格…………… 当月は横ばい～上昇。先行きについては、全ての事業者が上昇を見込んでいるという。



### [企業からのコメント]

- ・年度末や春までの仕事は確保できているが、その先は見えない。今はほとんど手一杯の状況であり、直ぐに取りかかるような仕事は受けられないが、受注は安定しない。

## 建設資材等

概況 1月の生コンの売上は前月比では減少～やや減少、前年比では増加。骨材は前月比減少、前年比増加

☑生コン … 売上は前月比は減少～やや減少。前年比では増加。

☑骨材 … 売上は前月比では減少。前年比では増加。

### [企業からのコメント]

- ・1月の主な出荷はリニア関連工事、三遠南信工事、砂防堰堤・護岸工事、工場建設等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は当月出荷量の約3割。
- ・「12月が良かった分だけ、景況感はやや悪化した」「前月より売上は若干減少した。前年比では増加」「リニア関連工事のおかげで成り立っている。一般の公共工事需要は少ない」
- ・当地域の各社とも、リニア生コンおよびリニア現場のおかげである程度の出荷があり、好調のようだ。

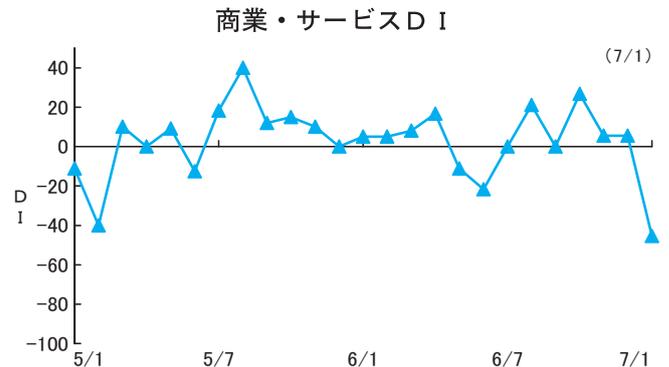
## 商業・サービス業

概況 景況DIは前月から大幅に悪化。飲食業、宿泊業で悪化の声が多い

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）はマイナス45.5で、前月から51.1ポイント低下。

当月は、小売業の一部で景況感好転の声があったが、他の業種では悪化～横ばいで、特に飲食業、宿泊業では多くの事業者から景況感が悪化したとの声が聞かれた。年末年始を終えた反動を指摘する声もあるが、長引く物価高による消費動向の減退を指摘する声が、業種を問わず多く聞かれた。

次月以降も景況感好転を見込む声は少なく、さらなる悪化を見込む声が飲食業、宿泊業を中心に多い。



## 原料も、製品も、人材も「無駄にしない」

～旭松食品株式会社 品質保証部部长 黒川 剛 氏～

下久堅から南原橋を渡ってすぐ、天竜川の西側に本店を構える旭松食品株式会社。創業から間もなく75年、今や飯田下伊那を代表する企業となった同社は、栄養価の高い「凍り豆腐」をはじめとする製品を全国の食卓へ届けている。そんな旭松食品が、地域と連携して環境に配慮した様々な取り組みを進めていることをご存じだろうか。

今回は、環境に配慮した取り組みを行う旭松食品の品質保証部の黒川剛部長から、その取り組みについてお聞きした。

お話を伺っていると、食品ロスに対する世間の意識の変化により、過去には廃棄するしかなかった原料や製品も、取り組み次第、連携次第で有効に活用できるという土壌ができあがってきていると感じた。地域の企業の皆様の参考になれば幸いである。



### 凍り豆腐製造から出る廃棄物を肥料に

●御社の主力商品である「凍り豆腐」を製造する際に発生する副産物から、有機質肥料を生産していると伺っています。

平成29年に、泰阜村の三耕地地区に「旭松バイオセンター」という肥料の生産施設を立ち上げました。当

社の主力商品である凍り豆腐を製造する際には、原料である大豆を煮込んで豆乳とおからに分け、豆乳を固めて凍らせ、解氷し乾燥させるという手順を踏みますが、その過程でたんぱく成分等を含んだ水が出ます。それまでは水と汚泥に分離して廃棄していたのですが、これが非常に栄養価が高く、廃棄せずに何かに活用できないかと。そこで、地域から発生する間伐材チップと混ぜて、昔ながらの自然に近い堆肥の作り方を追求した肥料を作ろうと考えたのです。

バイオセンターの運営にあたっては、泰阜村や三耕地地区と環境協定を結んで、環境保全を第一に、継続して品質の高い有機質肥料を生産できる体制を作りました。立ち上げ当初は、3年目で年間300トンの肥料生産を目指していましたが、直近の令和6年は931トンの肥料を生産することができました。



「旭松バイオセンター」で生産された有機質肥料

生産した肥料は、後ほどの話にも出てきますが、自社の大豆を生産する農場で使用しておりまして、地域の中で循環する仕組みを作っています。また、バイオセンターがある泰阜村をはじめ、地域の農家さんへの販売も行っています。

バイオセンターでは新しい肥料を作るための研究も行っておりまして、今は処分に困るキノコの培地や菌床、また籾殻などを使った肥料の開発について試験を行っています。



旭松食品本店・天竜工場外観（飯田市駄科）

- ・所在地：飯田市駄科1008  
（本店・天竜工場・食品研究所）  
大阪市淀川区田川3-7-3（本社）
- ・代表者：代表取締役社長 木下博隆氏
- ・従業員数：313名
- ・事業内容：凍り豆腐、即席みそ汁およびスープ類、介護食（カットグルメ）等の製造販売
- ・会社沿革：  
昭和25年創立、翌年から豆腐製造に着手。昭和37年に天竜工場竣工。昭和53年に食品研究所完成、研究開発体制を強化。昭和56年に即席みそ汁「生みそずい」発売。昭和58年に現社名に変更。平成2年に本社機能を大阪に移転、飯田を本店とする。平成16年に凍り豆腐、納豆の受注から製品引渡しにいたる全部門でISO9001認証取得。平成27年に凍り豆腐業界では初となるFSSC22000を認証取得、翌年には全社でFSSC22000を取得。  
東京証券取引所スタンダード市場上場企業。

## 「農福連携」での南信州産大豆作り

●原料である大豆を、どうやって無駄なく使うかを考えられての取り組みですね。

大豆については、自社での生産にも取り組んでいます。長野県の農業試験場が開発した、大粒で濃厚な旨味がある「つぶほまれ」という品種を、飯田下伊那の遊休農地を活用して育てています。そのために、10年ほど前に自社内で大豆栽培を行う「大豆クラブ」を立

ち上げ、その後、事業に引き継がれています。この自社での大豆栽培については、ASIAGAP認証（国際的な農産物栽培工程管理の認証規格）を取得しています。

その後、地域の農家さんの高齢化が進んできて、大豆を作るための農地は増えてきたのですが、そこでの労働力をどうするか、という課題が出てきました。

そこで、国がビジョンを出している「農福連携」（農業と福祉が連携して、障がい者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障がい者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取り組み）の仕組みを活用して、令和3年から豊丘村の「こぶし園」様と協力しての大豆栽培をスタートしました。

始めた年は2トンほどの収穫ができたのですが、直近の令和6年は暑さの影響なのか、130キロほどしか収穫できず農業の難しさを感じています。ただ、こぶし園の皆さんは丁寧に作業に取り組んでくださっており、また事業所の方で力仕事などの作業内容に適した人材を派遣してくださるので、大きな戦力になってくれています。

この取り組みで収穫した南信州産の「つぶほまれ」を使った凍り豆腐は、豊丘村の道の駅「とよおかマルシェ」様のご理解とご協力のもと、紹介ポップと共に専用売り場を設けて頂き、大きな反響をいただきました。

この農福連携の取り組みは大きな可能性があると感じており、他の農家さんや企業にも広がってほしいと思っています。



「農福連携」による自社農地での作業の様子。現在、300aほどの自社農地があるという

## 環境の専門部署はない

●御社では、早い時期から ISO9001（品質マネジメントシステムに関する国際規格）や、ISO14001（環境マネジメントシステムに関する国際規格）の認証を取得されています。

ISO14001については自社内で環境に関する取り組みが定着したと判断したため既に返上しており、現在は社内に環境を専門とする部署はありません。各部署、各委員会にて、環境の取組を行う中、令和2年にSDGs推進委員会を立ち上げ、長野県SDGs推進企業登録制度を利用し、活動を行っています。

環境に関連した取り組みとしては、飯伊地域の工場への太陽光パネル設置を行って、工場で使用する電力の約2割を発電できるようにしています。また、夜勤の際の機械設備の稼働時間短縮や、工場の窓へ断熱フィルムを貼ってエアコンの電気量を削減するなどの細かい活動も行っていきます。

●「旭松バイオセンター」などの取り組みは、専門部署が取り組んだわけではないのです。このような新しい取り組みに前向きに取り組める御社の社風を感じます。

肥料生産のことや農福連携の取り組みは、年に1回の小集団活動の発表会で全社員に活動内容を共有しています。

こういった取り組みを通じて、社員の中にも「環境のために自分たちに何ができるか」というところを浸透させていけたら、より良くなっていくのではないかと考えています。

## 原料も、製品も、人材も「無駄なく」

●原料だけでなく、製品の廃棄に関する取り組みも進められているのですか。

食品業界には昔から「3分の1ルール」（食品製造日～賞味期限までを3分割し、「納品期限は製造日から3分の1時点まで」「販売期限は賞味期限の3分の

2の時点まで」とするルール）があるので、かつては納品期限を過ぎた製品は賞味期限まで日があっても、すべて焼却処分していました。

ただ、今は食品ロスに対する世間の考え方が変わってきたため、出荷できない製品であっても地域の子どもの食堂などに活用いただいている、焼却処分することはほぼなくなりました。また、製品として包装する前の段階の原料や中間製品については、畜産用の飼料として畜産農家に引き取ってもらう取り組みも行っています。

●そうすることで、廃棄物の処理に関する費用も少なくて済むことができるわけですね。

ただ、常温保存のものは対応できるのですが、冷凍保存が必要な製品は保管が難しいため、対応しにくいというところは課題としてあります。

●今後は、どのようなことに取り組んでいきたいとお考えでしょうか。

やはり、食品ロスは何とかしたい、という思いがあります。ただ廃棄するという事は本当に面白くないことだと思いますので、製品として食べてもらえなくても、肥料として、飼料として使ってもらう。そうすることで、地域の中で循環していく仕組みがもっと浸透していったらいいと思っています。

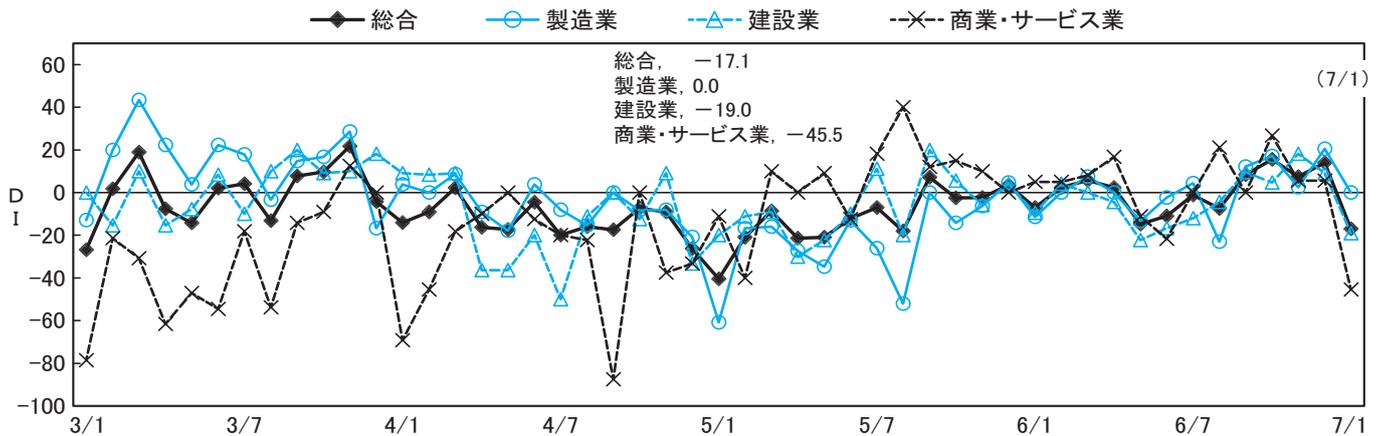
あと、環境とは関係ない話ですが、食品だけでなく、この地域にいる人材も無駄なく活用する、という視点が必要ではないかと感じています。農福連携の取り組みを通じてこぶし会様と関わらせていただいたことで、障害を持った方たちの農業生産に対する可能性を強く感じています。人手が足りない、足りないと言われていますが、視野を広く持って考えれば取り組めることはたくさんあると感じています。

●お忙しいところ今日は誠にありがとうございました。

（文責：しんきん南信州地域研究所 竹内文人）

# 飯伊地区全産業景況DIの推移

飯伊地区景況DI (本誌調査)



## 飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒産件数 (負債総額1千万円以上) (12月)	県内	9件	(前月 13件)	(前年同月 5件)	(前々年同月 6件)	(令和元年同月 10件)
	飯伊	0件	(前月 2件)	(前年同月 1件)	(前々年同月 0件)	(令和元年同月 0件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数) (12月)		78戸	16.4%	36.8%	39.3%	18.2%
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (12月)		1.47倍	(前月 1.56倍)	(前年同月 1.55倍)	(前々年同月 1.70倍)	(令和元年同月 1.49倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,970台	4.3%	12.2%	6.4%	4.3%
	中古車	553台	△ 20.2%	△ 2.0%	29.2%	21.0%
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (12月)	新車	3197台	△ 11.9%	△ 7.9%	△ 11.2%	△ 4.9%
	中古車	935台	△ 0.6%	4.5%	16.9%	6.7%
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	88,406台	△ 7.1%	1.2%	4.8%	△ 15.7%
	出	87,517台	△ 10.5%	0.4%	3.6%	△ 16.4%
中央道利用台数 (松川インター分)	入	48,495台	△ 13.4%	△ 2.5%	△ 3.8%	△ 30.1%
	出	44,721台	△ 18.9%	△ 1.8%	△ 2.6%	△ 30.0%
中央道利用台数 (園原インター分)	入	11,554台	9.6%	6.1%	△ 2.0%	△ 6.8%
	出	11,442台	12.7%	9.4%	△ 3.8%	△ 9.6%
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	40,531台	△ 7.9%	8.3%	16.8%	18.5%
	出	38,764台	△ 12.4%	6.7%	16.0%	18.3%
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	39,823台	△ 4.2%	10.7%	20.2%	-%
	出	39,943台	△ 6.3%	15.7%	23.2%	-%
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		121件	△ 17.7%	△ 8.3%	0.0%	△ 4.0%
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		6件	(前月 1件)	(前年同月 5件)	(前々年同月 2件)	(令和元年同月 8件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	23,617人	△ 4.4%	10.3%	27.7%	△ 11.6%
	飯田～名古屋	13,817人	△ 3.2%	2.8%	18.6%	△ 22.6%
	飯田～長野	3,324人	△ 0.6%	△ 4.5%	△ 4.5%	△ 60.6%
	伊那・駒ヶ根～新宿	17,869人	△ 4.4%	7.0%	42.0%	△ 15.1%
市内循環バス乗車人数	左回り	2,690人	△ 19.5%	10.2%	16.5%	△ 10.7%
	右回り	2,654人	△ 11.8%	7.6%	13.4%	△ 7.6%

# 新入社員研修会のお知らせ

## 恒例の新入社員研修会を開催します

専門講師が、身だしなみ、敬語の使い方、電話応対、来客対応など、新入社員の皆さまに必要なスキルを分かりやすく講義します。社会への好スタートを切り、一日でも早く活躍できますよう、ご活用ください。

**日 時**：令和7年4月23日（水）  
10：00～17：00

**講 師**：山本 富士美 氏  
オフィス・F 代表／一般社団法人 日本講師協会会員

**会 場**：シルクホテル

**費 用**：IBC会員 3,000円（税込）  
しんきんAssist倶楽部会員 4,000円（税込）  
一般企業（上記以外） 5,000円（税込）

※いずれもお一人様あたりの金額となります。昼食のご用意いたします。研修会開催後、申込企業さまへ請求書を送付いたしますので、ご確認頂きお振込みください。

**定 員**：先着70名

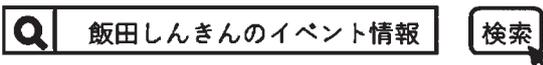
**申込期限**：令和7年4月8日（火）

**申込方法**：下記コード、または飯田信用金庫ホームページから申込フォームにアクセスし、必要事項をご入力してお申し込みください。折り返し「受付完了しました」のメールが届きましたらお申込み完了となります。

専用申込フォーム



または



お問い合わせ

飯田信用金庫 地域サポート部  
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132